

Open Source Conference 2020 Online/Kyoto - パネルディスカッション: 多様性時代のDB選択 ~ 激論! DBMS選択のニューノーマルは?

<https://event.ospn.jp/osc2020-online-kyoto/session/158133>

【担当(協賛出展)】

オープンソースビジネス推進協議会



OBCI

オープンソースビジネス推進協議会

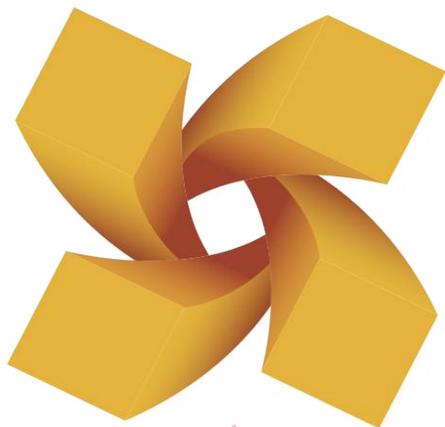
【協力】

OSSコンソーシアム

- ・データベース部会
- ・分散コンピューティング部会



OSS
Consortium



OBCI

オープンソースビジネス推進協議会

<https://obci.jp>



OSS

Consortium

<https://osscons.jp>

この2団体の共同企画として実現しました。

本当は団体の紹介をしたいところですが、今回は省略します。
ご関心を持たれた方はWebサイトをご覧ください。



デベロッパ

アドミニストレータ

WEB+デザイン

ライフスタイル

gihyo.jp » DEVELOPER STAGE » 連載 » OSSデータベース取り取り時報 » 第52回 MySQL

OSSデータベース取り取り時報

第52回 MySQL Innovation Day 2019, PostgreSQL Conference Japan 2019開催

 ツイート  リスト  B! 1  いいね! 11

2019年12月2日

梶山隆輔, 中西剛紀, 溝口則行

 MySQL, PostgreSQL, InnoDB, PostgreSQL Conference Japan

OSS 取り取り

検索

登壇者 (パネリスト + モデレータ)



梶山 隆輔
さん

日本オラクル(株)
MySQL GBU



栗田 雅芳
さん

東芝デジタル
ソリューションズ
(株)



才所 秀明
さん

(株)日立
ソリューションズ



高塚 遥
さん

SRA OSS, Inc.
日本支社

日本PostgreSQL
ユーザ会 理事



溝口 則行

オープンソース
ビジネス
推進協議会

TIS(株)

今回のタイトルについて

●「多様性時代のDB選択」

●次ページでご説明します。

●「DBMS選択のニューノーマル」

●新しい選択の基準というか考え方があってはいいか？ という“ニューノーマル”という言葉で表しましたので、コロナ禍での、やウイズコロナ時代での、という趣旨ではありません。言い訳として…。

どんな課題意識を持って進行させたいか (モデレータ私見)

- OSS利用が普通になった昨今でも、「コストさえ許すなら特定の商用RDBでいいじゃないか」という意見が聞かれます。特にSlerの中でその傾向がある様にも思います。保守料の売上が欲しい営業ばかりではなく、**技術者からも「これまで使ってきた製品を採用して欲しい」という意見はたしかにあります。**
- プログラミング言語はもちろん、稼働プラットフォーム (クラウド基盤やOS) やデバイスだってケースバイケースで選択する時代に、**DBMSが一択なんてさすがに保守的すぎると思います。**
- 保守派が堅持しているのはやっぱりRDBでしょう。けれどRDB以外にもいろんな優れたDBMSがOSSではあります。それにOSSのRDBだって、それぞれが特徴ある発展をしつつあり、単に某製品の代替品というわけではありません。
- いろんな道具を使い分けるのは、それはそれでシンドイこともあります。最初から選択肢を持たない姿勢は残念だと感じています。せつかく、多様な選択肢があって「選べる」時代になっているんですから。

- 「使い慣れた商用RDBに固執する状況に賛成か反対か、または賛成じゃ無いけど同情するか」
 - DBを切り替えるのはたいへんなパワーが掛かるので、なかなか思い切って進められないことに同情する(事情は理解できる)
 - 逆に「早く変えたい」というユーザの相談もあり、「ゆっくり慎重にやりましょう」とブレーキを掛けるケースすらある
 - → 変えたくない力と変えたい力の両方?

- 「いろんなDBに目を向けてもらうためには誰を攻めるのがいいと思うか」

- 攻める相手は経営者一択 (開発者やSIerを攻めても…)
- 開発を発注した先(SIerでしょうか)が壁になっている場合が多い (のでそれ以外を攻める)
- (既存システムのDBを切り替えるのはしんどいので)新しいビジネスを始めるところから新しい道具を



- ① データ処理ツール(DBMS)は, 少数の有カツールの寡占で良いか? 多様化に向かうべきか?
- ② DBの稼働環境もクラウドが当たり前になっていくのか?
(たとえば, オンプレミスのスケールアップ大型DBサーバの使い道は残るか?)

※ 現実論として考えたときの阻害要因 = 人材不足とか要件リスクなどに引きずられ過ぎないように, 「べき論」メインにしたい。

※ 本セッションでの「DBMS」は, 従来型の狭い意味でのデータベース管理システムだけではなく, “そこそこの” 量のデータを保持し処理するツール全般を含める。

すすめかた

- オープニング

- 4～5分

- 「①データ処理ツール(DBMS)は、少数の有カツールの寡占で良いか？ 多様化に向かうべきか？」

- 15分くらい？

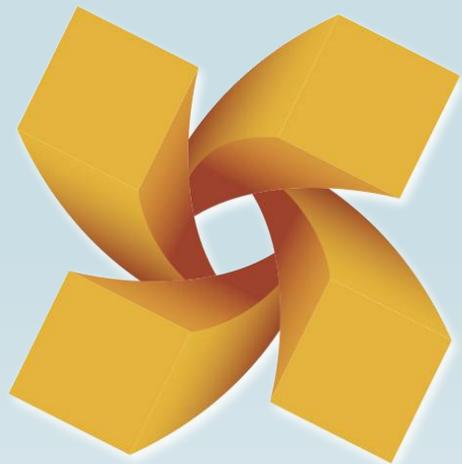
- 「②DBの稼働環境もクラウドが当たり前になっていくのか？」

- 15分くらい？

- [参加者からの意見や問いかけ]

- 5分くらい？

- さいごにひとことずつ



OBCI

オープンソースビジネス推進協議会



OSS Consortium

本資料はLibreOfficeで作成しています。

